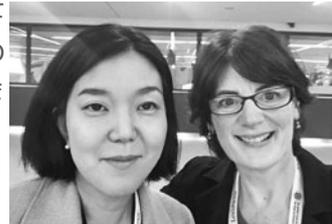


性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる弁護士会を

第15回 オーストラリア弁護士連合会次期会長 フィオナ・マクラウド氏インタビュー

聞き手：男女共同参画推進本部事務局次長 坂野 維子 (57期)

オーストラリアで弁護士の男女共同参画に取り組む、フィオナ・マクラウド弁護士から話を伺いました。同弁護士は1991年に弁護士登録した後、企業法務を業務の中心とする一方で、国際人身売買防止等のプロボノ活動にも積極的に取り組んでいます。2013年ヴィクトリア州弁護士会会長、2015年オーストラリア・バーアソシエーション*1会長を務めた後、2017年のオーストラリア弁護士連合会（ローカウンセル）*2会長に選出され、現在は次期会長*3として活動しています。プライベートでは、グラフィックデザイナーである夫と、21歳と18歳の2人の娘との4人暮らし



坂野事務局次長（左）とマクラウド氏

とのことです。

*1：オーストラリアにおけるバリスタ（法廷弁護士）のみが所属する弁護士会

*2：オーストラリア各州の弁護士会が加盟し、またソリシタ（事務弁護士）のほかバリスタも所属する、オーストラリアの弁護士全体の弁護士会

*3：オーストラリア弁護士連合会では、実際の任期から1年前倒しで会長選挙を行っており、当選した候補者が、「次期会長」という役職名で、会長を補佐して職務にあたる。

— オーストラリアにおける弁護士の男女共同参画の状況について教えてください。

オーストラリアでは女性弁護士の増加が著しく、直近10年以上の間、新規登録する弁護士の過半数、6割近くが女性という状況が継続している。もっとも女性弁護士は若い層に偏っており、男性弁護士では、35歳以下の若い弁護士の割合が24%にとどまるのに対し、女性弁護士では、35歳以下の弁護士の割合は49%にのぼる。このように急増している女性弁護士だが、5～7年のうちに仕事をやめてしまう者も多い。そのため、2012年から2014年にかけて原因を調査するプロジェクトを行い、その中で、約4000人の弁護士を対象としたアンケート調査や、聞き取り調査を実施した。

— 調査の結果はいかがでしたか。

長大なレポートにまとめており、ここでは紹介しきれないが、女性弁護士の活躍を妨げる要因として、家庭責任の負担が今なお女性に偏っていること、法律事務所でも男女問わず長時間労働の慣行が残っていること、女性弁護士がロールモデルやメンターを得にくいこと、様々な形のセクハラが存在、等が挙げられる。

— 調査をふまえた対応としては、どのようなことを行いましたか。

弁護士会として男女共同参画宣言を採択し、また育児休業や柔軟な職場環境に関して、雇用者側、当該制度を利用する側の双方が注意すべき点をまとめたガイドラインを作成した。また、各法律事務所や組織が、

パートナーその他のリーダー的な地位にある女性の割合について、各々の実情に応じた個別の数値目標を自主的に掲げるように推奨する提言を行った。

— 国を問わず弁護士会には、性別の違い、子どもや要介護家族の有無、ワークライフバランスに関する考え方の違い等、様々な異なる要素を持つ会員が所属していると思いますが、貴会では、男女共同参画にどのような意識で取り組まれているのでしょうか。

法曹を育てるにはコストがかかるため、「育児中の女性弁護士」等、特定のカテゴリーの弁護士がやめてしまうという事象があるのであれば、それは法律事務所や所属組織にとっても、また社会にとっても大きな損失であり、その原因を解消すべきである。また、弁護士の依頼者が、法律事務所のダイバーシティに注目することもあり、特にグローバル企業はその傾向が強い。弁護士会も、一般市民や企業の間を取り入れながら、変革していく必要がある。

インタビューを終えて

女性弁護士の割合、弁護士業界全体の業況、弁護士自治のあり方等については、国や弁護士会により事情が異なりますが、客観的資料に依拠し、個々の弁護士の働きやすさと法律事務所の経営の双方に配慮しながら、具体的提言を積極的に行っていく姿勢は、参考になると感じました。

（インタビューは、2015年10月にウィーンで開催されたIBA年次大会に際して実施しました。）